

平成28年第6回教育委員会会議

平成28年4月13日

午後 2時59分 開会

1 開会宣言

○葛西教育長 ただいまから平成28年第6回教育委員会会議を開会いたします。

会期は本日限りといたします。

本日の会議の欠席者を教育総務課長から報告願います。

○長谷川教育総務課長 本日、川森スポーツ課長が欠席です。

以上です。

○葛西教育長 傍聴者はお見えですか。

○加藤教育総務課主幹 本日、傍聴の方、お一人いらっしゃいます。

○葛西教育長 わかりました。

2 会議録署名者の決定

○葛西教育長 それでは、会議録署名者の決定に移ります。

お諮りいたします。

本委員会の会議録署名者として、加藤委員と私とで行いたいと思いますが、ご異議ございませんか。

(「異議なし」の声あり)

○葛西教育長 ご異議がないようですから、提案どおり決定いたします。

3 議事

○葛西教育長 それでは、これより議事に入ります。

本日は、協議事項2件、議案事項1件ですが、協議事項のうち、今後の中学校給食の検討については市議会等に関する案件、議案事項については人事案件であることから、非公開にて審議したいと思います。委員の皆さん、ご異議はございませんか。

(「異議なし」の声あり)

○葛西教育長 ご異議がないようですから、後ほど非公開にて審議いたします。

(1) 協議

1 四日市市学力向上アクションプランについて

○葛西教育長 それでは、協議事項の四日市市学力向上アクションプランについて、説明をお願いいたします。

教育監。

○吉田教育監 説明をさせていただきますので、どうぞよろしく申し上げます。資料は、お届けするのが大変遅くなりまして申しわけございませんでした。

まず、ちょっと日がたっておりまして、最初にそのあたりでご説明をさせていただきたいと思います。

これまでの経緯という形でなんですが、平成27年度の総合教育会議を受けて、5月21日から10月1日まで計4回の、加藤委員を座長とした学力向上のための懇談会を実施させていただきました。その提言を受けて、どのような力を育むかということで、社会人になっても通用する問題解決能力を育むんだと。それから、後で出ておりますが、手法、それから対象ということで、子どもたちの主体性を重視した学び、そして、時代の変化に対応した教育を進めていくんだということを中心にアクションプランをつくっていったらどうかというような形で取り進めてまいりました。

1月6日の総合教育会議をさせていただいた上で、2月3日の教育委員会会議でその案をご協議いただきまして、いろいろご意見をいただきました。そのご意見をいただいた中で、2月29日、教育民生常任委員会の協議会においてご説明をさせていただいて、本日を迎えたということでございます。

そういうような流れの中で、まず、議会からは、私の説明もちょっと不十分なところがあったんですが、これは学力向上に特化したような形、そして、環境を整えるというような形でアクションプランを、行動計画を進めていくというようなことをご説明をさせていただいたんですが、いろいろ、種々のご意見もいただきました。例えば、道徳教育を盛り込んだらとか、ユニバーサルデザインとか体力と学力の相関性はどうかとか、いろいろご意見をいただいたんですが、アクションプラン自体は学力に基づいて、そして、6つのアクションをそれぞれ学びの質の向上と学びの環境の充実という形で区分させていただくということについては変更をかけずに、今回の教育委員会にかけさせていただくことになりました。

そして、まず、1ページをごらんいただけますでしょうか。

1 ページにつきましては、今ご説明をさせていただいたような策定の趣旨あるいは経緯ということで、特に変更したことはございません。

続いて、2 ページをごらんください。

2 ページにつきましては、アクションプランの概要というようなことで、今も少しご説明をさせていただきましたが、四日市市学力向上のための懇談会の提言書を受けた形で進めていくという真ん中の図が一番わかりやすいかと思えます。

この中で、その下に、丸印でプランの計画期間と評価という形で、おおむね5年を計画期間とさせていただくと、さらに、第3次の教育ビジョンの基本目標1の確かな学力の定着における成果指標に基づいた評価を行っていきますということをちょっと入れさせていただいております。これによってプランがより実効性を発揮し、子どもたちに確かな学力が定着するよう進捗管理を行います。このような形で3行ほど入れさせていただきました。これは、ビジョンの14ページにあります成果指標に基づいて行うということです。

この途中までのご協議の中で、委員の皆さんの中からは、屋上屋を架すようなことのないように、教育現場が混乱しないよう配慮をしてほしいとご意見もいただいておりますので、ビジョンに重ねていくというような形で進めていきたいと思っております。

また、その下ですが、学校施設整備など、教育環境の充実については、本市の第3次推進計画と連携しながら進めていくということを書かせていただきました。

そして、具体的には、3 ページ以降、8 ページまでのこととございます。

いろいろ前回のときにもご指摘をいただきまして、表記の仕方等も少し工夫をさせていただいているところとございますが、まず、アクション1と2を、前回、入れかえて表記したほうが良いというようなことで、1に、確かな学力の定着のための授業改革というようなことで持ってきておりますし、その次に、思考力・判断力・表現力を高める言語活動の充実という形で前回どおり変更して進めております。

一部、言葉の表記の仕方でも変更もさせていただいております。例えば、アクション6の最後のところですが、英語能力強化のための環境を整えますという表現のほうが良いんじゃないかというようなご意見もいただいたと思っておりますので、そのような表記をさせていただきました。

続いて、4 ページをごらんください。

ここからは、ご意見をいただいた中で、さらに教育委員会で、各課で案を出して、ちょっと練ったというか、出させていただきまして、ここについては、今日の教育委員会会議

の中で各委員の皆様からいろんなご意見をまたいただきながら修正を加えていきたいと思っている部分でございます。

まず、1つ目にお断りしておきたいのは、今は繋がるようにページを表記させていただいておりますが、この体裁については今後直させていただきます。

そして、まず、アクション1のところですが、確かな学力定着のための授業改革ということで、前回のご議論の中で、基礎的、基本的なものをしっかりと定着させて、問題解決能力などにつなげていくことが重要ではないかというご意見もいただいておりますので、具体的な取り組みの中で、全国学力・学習状況調査や、本市が以前からやっております到達度検査（CRT）の分析を行い、基礎、基本の定着と、それを生かした授業改革につなげていくということが一番初めに持ってまいりました。

2つ目に、その授業改革においては、ずっと言われていることなんですが、授業の狙いをまず明確にする、狙いをはっきりさせると。今日は何を学習していくのか、何を学んでいくのかということ。そして、その最後に、授業の内容を振り返る活動を取り入れた指導をしていきますという授業改善につながるようなことを書かせていただきました。

3で、すぐれた指導方法を共有できるように働きかけをしていきたいということで、まず、今現在も発行しておりますが、『問題解決能力向上のための授業づくりガイドブック』、これも改訂をしていきたいと思っております。特に、小中学校ではある程度アクティブラーニングについては進めております。ただの一斉授業で、一方的な教授の授業ということは今現在あり得ませんが、そういうようなことも折り込んだガイドブックの改訂版を発行していくことになっていきます。

そして、さらに、公開授業研の開催等の啓発を進めていく上で、「活用の推進校」5校と、「教育実践研究指定校」2校でやらせていただいております。今現在も橋北中学校区と富田中学校区でやらせていただいております、2年目を迎えます。各校区小1、中1の4校でやりますので、授業公開を進めていく。

そして、より先生方に実践をわかりやすい形で示していくということで、実践事例集の発行、こういうのも考えております。さらに、昨年度も指導課が、教員用の『授業づくりヒント&ポイント』というものをつくりまして、主体的、協働的な学びの実践事例を配付して、参考にさせていただくことを進めております。これも継続していきたいと。

そして、もう一つは、今、私どもは、ふだんの授業の中で、やっぱりノート指導という部分が非常に重要ということで、委員の皆さんからもお聞きしたと思います。ここもやっ

ばり柱としては入れていきたいと思っておりますので、アクション1については、ちょっと細かくなりますが、大きく3つの中でさらに3つに分かれるというような表記をさせていただきます。

続いて、2つ目に、アクション2ですが、5ページへ進めさせていただきます。

ここは、思考力・判断力・表現力を高める言語活動の充実ということで、まず、具体的な取り組みについては、言語活動の充実ということ。これは、もう以前から言われていまずように、考える力や資料を活用する力を生かす機会を増やしていくということです。学力の向上研修会、それから各校の研修会への指導主事の派遣、思考力を鍛えるための授業づくりや資料を活用した授業展開などの助言を中心に進めていきたいと考えています。

また、平成30年度から、正式に特別な教科、道徳ということで、27年の3月に学習指導要領の一部改訂がございましたように、道徳なども含めて、やっぱりお互いに議論したり意見交換をして、自分たちの価値を深めていくという授業づくりをしていく必要がございますので、そういう取り組みを進めていくということをまず挙げさせていただきました。これは、教科以外でもこういう言語活動を進めていくという取り組みを示しているところ です。

さらに、(2)で、直接使いこなす場の設定ということで、今までもやっておりますが、読書後あるいは体験活動などを含めたものの後の1分間コメント、こういうようなものを進め、読書推進校などは学級単位で1分間コメントをやって、学年代表を決め、例えば1学期の終わりに全校生徒の前で各代表がコメントを発表するというようなことで、1年生から3年生まで、中学校ですが、やるような取り組みもしておりますので、そういうようなことを進め、さらに弁論大会、これは市長の総合教育会議のときにも出ておりましたが、その弁論大会ということで、まず、中学生のスピーチコンテスト「THE BENRON」というものをこの8月にも開催していきたいなというふうに考えているところです。

あらゆる機会をとりながら、自分の考え等を発信していく言語活動の充実を図ってまいりたいと思っております。

それから、アクション3につきましては、これは、四日市ならではの教育資源を活用していくというようなことで進めていき、「心豊かな“よっかいち人”」の育成に寄与していくということでございますが、具体的な取り組みとしましては、地域のコンテンツ、資源のコンテンツということで、博物館、プラネタリウムの活用を進めていったり、次のページに続きますが、久留倍の官衙遺跡、それから、現在も毎年改訂を進めています『のび

ゆく四日市』の発行。それから、キャリア教育の視点を生かした企業、大学、それからJAXAというようなことをございますが、そういう方と連携授業を進めて、生きた教材を用いた授業づくりをさらに推進していきます。そして、そらんぼ四日市の1・2階にあります四日市公害と環境未来館の活用、こういうようなところへ進めていき、持続可能な社会というような環境づくりの中で、ESDカレンダーというものを新たに入れてみたいと思っております。

それから、アクション4のところですが、ここからは、学びの環境の充実ということで、まず1つが、空調設備のことをございます。

26年、27年、既に図書室と視聴覚室の空調整備については終わりましたが、本年度、28年度は音楽室を予定しているところです。それと並行して、普通教室への空調設備の整備をどうしていくかということを進めていきます。

ただ、以前にもご紹介しましたように、四日市は規模が大きいので、普通教室だけで960室もあります。これをどういうふうに施工していくか。そして、その後の予算の平準化や、あるいはメンテナンスというような部分で考えていかざるを得ない部分がありますので、そういうことを書かせていただいております。

それから、アクション5については、ICT。もうこれからの世の中、こういう電子機器を整備して、それを活用できるような能力を子どもたちにも育てていく必要がございますので、そのICTを活用した学び合いのできる環境整備を進めていくということで、29年度から30年度について研究推進校区を新たに指定して、電子黒板等のICT環境整備・拡充を進めながら、その有効な活用について、31年度以降に段階的に、特に中学校から整備を進めていったらどうかという考えを私どもは持っています。

また、そういうことを進めながら、一方では、手元で子どもたちが協働的な学習を進めていくときに必要なタブレット型の端末を導入していくということも考えております。

続いて、最後のページ、8ページですが、それに伴って、今現在もデジタル教科書等のソフトウェアの整備を進めているところです。

例えば、小学校では、国語や算数、それから理科、社会は、教科書会社に関係なく、共通で使えるような資料を取り入れております。中学校では、英語とか数学、理科、これに地理系の白地図とか、いわゆるいろんな地図とか、年表とかが入ってくると思われ、そのような整備を行っていますが、それをさらに充実していく必要があると思います。

それから、最後ですが、これも学力向上の懇談会のときにも出ておりましたが、英語教

育の環境の充実ということで、これからのグローバル社会に対応していくためには、どうしても英語というのは必要なツールであるということで、学校で勉強していきながらも、要は世の中へ出たときにそれが生かされていかないといけないという、今、日本が一番抱えている英語の課題かと思われまますので、今後、新学習指導要領がこの平成28年度に改訂の答申が出てくると思います。

その中で、特に小学校の外国語活動が英語科への教科化されるというようなことで、特に5・6年生というふうに伺っているわけなんですけど、現在の状況ですと、やっぱり担任だけでは十分やり切れない部分がある。授業数も週1こまから週2こまになる。そのうちの1こまはモジュール授業の形式で、例えば1日10分とか15分ぐらいの短い間に担任がやるとしても、もう一こまの45分については、やっぱり専科の者を入れて、担任と学習を深めていくことが必要ではないかというようなところで、よりスムーズに中学校に接続できるような非常勤講師の配置が必要ではないかと考えております。

それから、別資料でもありましたが、四日市の場合、いわゆる英語力の学習到達目標である、何々することができるというCAN—DOリストというものの活用が大変おこなわれている状況が浮き彫りになってきましたので、そのところも強化していきたい。

それから、最近、新聞紙上でも出されておりますが、中学校3年生における英検3級程度の状況につきまして、四日市の場合は、三重県や全国に比べると下がっている。

そういうことで、議会でも、3級程度ってどの程度かというような問いがありまして、それを見るためには、ほんとうは英検の3級を受検して進めていくのがいいんですが、それにかわって、英検にIBAというものがあまして、どれぐらいの力を持っているかというのを診断できるものがありますので、それを導入することによってはっきりとわかってくるのではないかと。

実は、英検3級というのは、受検料が3,200円かかります。これ、個人になりますので、これを全額補助しているというのは、例えば秋田県とか和歌山県が県全体で補助するとかいう、あるいは市でも、全国で幾つかのところで一部補助とかいうことをしているんですが、四日市はどういうふうに進めていくのかということは今後課題になると思いますが、第1段階として、こういうIBAというものを実施して、県等への要望を上げていきたいなと思っております。

それから、夏休みの出前講座として、YEFを派遣して、「レッツ・エンジョイ・イングリッシュ」というような小中学校での実施を進めていきたい。また、これもちょっと懸

案になっておりましたが、英会話集というものを、教科書に準拠したもので何か工夫できることはないかと。

最近、やはり東京でも、一部広島へも行っていますが、修学旅行先でそういう交流があったときに、英会話を進んでやっていくというような取り組みもできるのではないかと。仮称ですけれども、「修学旅行で英会話」という、アイデアもあるのではないかとということで入れさせていただきました。

あと、英語担当の教員につきましては、四日市の場合、英検の準1級以上を取得している教員の割合が、全国や三重県に比べてかなり高いレベルにあります。目標とする50%についても、もう少しのところまで手が届くようなところまで来ています。さらに取り組みを進めるためには、小学校英語におけるモジュール学習の進め方といった実践事例の共有化なども必要だと思っています。そういうことで、学校教育についての英語科についてはそういう取り組みを進め、英検に結びつけて、家庭教育に結びつけて、英語に対する意欲を高めていくという取り組みへ結びつけて、学校と家庭とでうまく連携できればと考えているところです。

以上、ほんとうに雑駁な説明でございますが、どうぞご意見をいろいろいただきまして、対応させていただきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

○葛西教育長 どうもありがとうございました。

それでは、この前段の部分、1、2、3の部分、ここの部分でまずご議論いただいて、その後、後段の部分、具体的なアクションの部分ということで、2つに分けて議論をしていきたいなと思います。

1、2、3につきましては、総合計画、学校教育ビジョン、アクションプランと、これらが整理した形でやっぱりきちっと示してほしいという意見も強く、わかりやすい表、それから文面にもなっているのかなと思います。それから、また、学力向上アクションプラン策定の経緯についても書いていただいているという感想を持ちますけれども。

先生方、いかがでしょうか。ご意見があればよろしく願いいたします。

○渡邊委員 1ページから3ページまでのところについて、今日は議論のプロセスを復習させてもらって、アウトラインが非常にはっきりしてきた。

それから、前に3ページのところの2本柱のハード、ソフトとか書いてあったけれども、そうじゃなくて、質と環境という2本柱だということで、非常に整合性がとれて、大変すっきりしたと私は思います。ここで何ら異論はなくて、大変充実してきた、よくなってき

たという感じですけど。

○葛西教育長 ありがとうございます。

○渡邊委員 だから、あとの4ページ以下のところについて、アイデア段階というようなところもあるし、やっぱり慣れているところとそうでないところが色々あるので、そこが今日の議論の焦点じゃないですかね。

○葛西教育長 渡邊委員から、1、2、3についてはこれですっきりしてきたというふうなことで、筋立てもよく見えると。4ページ以降、ここのところをもう少し議論を深めたいというご意見をいただきましたけれども、それでよろしいでしょうか。

それでは、4ページから8ページまで、アクション1からアクション6、これについて議論に入っていきたいと思います。

○松崎委員 質問です。

2つありますが、ちょっと詳しく教えていただきたいなというところなんですけれども、1つ目が、アクション3の(3)の②の、先ほど少し説明いただきましたESDカレンダーのところなんです、実際、どういったものになって、どういうふうに使われていくのかというのを知りたい。

あと、アクション6の具体的な取り組みの(2)の①の夏休み出前講座「レッツ・エンジョイ・イングリッシュ」というもの、これも初めて私は拝見したので、もう少し内容を詳しく教えていただけたらなと思います。

○吉田教育監 では、指導課から説明させていただきます。

○廣瀬指導課長 指導課の廣瀬でございます。

環境学習については、四日市にあるネクストステップ研究会という環境支援団体と中部中学校や三重平中学校が先行研究を行っています。昨年度、取り組んだ内容としては、今ある各教科の単元の中で、環境教育に関連しているところをカレンダー形式であてはめていく。例えば、4月には国語でこんな単元の中で環境にかかわるものを学習していくということを各教科の単元をはめていきます。そのときに、計画的に、系統的にイメージを持って1年間、この分野ではこういう環境に関することをこのタイミングで学ぶということ、見通しを持っていけば、子どもたちに環境改善への意識、持続可能な社会づくりの意識をつくっていくことができるのではないかと考えています。そういう構想のもとに、年間の見通しを持ってそれぞれの教科が横断的に学習を進めるという示しができないかというところで取り組んでいきたいと思っています。

初年度に当たっては、まず、自分たちがやったことを整理してはめ込む作業から、それを振り返ったときに、狙いどおりに流れているのかということ、1年ずつおこなっていきますけど、それを流していけば、翌年、また改善ができる。持続可能な社会づくりへの意識啓発という形で進めていければよいのかなと思っています。

それから、アクション6の「レッツ・エンジョイ・イングリッシュ」につきましては、英語指導員の新しい者が8月に着任することもある、研修を8月からやっているわけですが、子どもには2学期の9月1日から接することとなります。四日市の中学生と接する機会を与える必要があるということで、ちょうどギブ・アンド・テークの関係になるんですけども、実際に夏休み中に手を挙げていただいた学校へ出向いて、子どもたちを集めていただいて、英会話を使ってコミュニケーションをとる、そういう機会をできるだけ増やしていければよいのかなと今考えています。

○松崎委員 今までは、これは行っていなかった？

○廣瀬指導課長 今までは、どちらかというと、Y E Fの研修という形で実施していましたが、夏休みは部活動とかがたくさんあって、なかなか手を挙げてもらえないところをお願いしていったところがあった。今回はもうちょっと雰囲気を変えて、英語のレッスンを出前でやるよということ、色を濃くして広げていければよいのかなと考えています。

○吉田教育監 特に、「レッツ・エンジョイ・イングリッシュ」のところ、今、課長からも説明がありましたけれども、夏が暑いので、今までなかなか実施するのが苦しかった。しかし、視聴覚室とか図書室がきちっと整備できたということで、ある程度の規模で、スタンプも、ちょっとゲームを入れながら、そういう活動もしやすい環境になってきております。こういう中で、いきなり全部はちょっと難しいかもしれませんが、計画的に全部の学校で実施できるような形を見越して、浸透を図っていきたいなと考えているところなんです。

○松崎委員 ありがとうございます。

○葛西教育長 ほかにいかがでしょうか。

○渡邊委員 8ページの英語教育のところですけど、英検そのものだったら相当費用がかかるということですね。だから、それに相当するようなものを、導入をして進めると、そういう趣旨ですね、四日市の計画はね。

○吉田教育監 そうです。この2月議会でも教育民生常任委員会の中でちょっとこういう

話も話題になりまして、補助ということでは、個人の資格にもなってきますので、全額補助していくというのは、なかなか規模も、すごくお金がかかる部分です。

例えば、大体、補助というと、全国でも3分の1の1,000円ぐらいから半分ぐらいで補助していくというような形で進めていることが多いようです。ただ、国が、「やりなさい」と推奨しているのであれば、当然、そういう部分で子どもに補助が国からあってもいいのではないかなと思っています。

ですので、とりあえず今の段階では、様子を見がてら、将来的にはそういう形に持っていくにしても、足がかりをつくっていききたいなと思っていますところ。

○渡邊委員 やっぱりそのためには、今のお話でいくと、ここの後の「英語教育実施状況調査」の結果という、この資料、やっぱり四日市は、教員の英検準1級以上の取得割合なんかは非常に高いですね。教員の英語教師のそういう能力というのは非常に高い。なんだけど、実際には生徒の英語力の状況というのはまだまだだと。ここらのギャップをどういうふうにして埋めて、先生たちの能力を生かしていくのかということが、どういうプロセスでやっていけるんだろうなというのは非常にお尋ねしたいところです。しかも、これはやっぱりある意味での強みをうまく活用していくということだと思うんですよ。そこらはどうなんですかね。

○葛西教育長 その点、指導課長、どうですか。

○廣瀬指導課長 アクションプランの2番にも示させていただいたとおり、CAN-DOリストの設定がかなり遅れているというところが1つです。英語を使って何をどうしたいのかということが、英語の教員の中で目標設定がしっかりできていなかったという反省があるのではないかと思います。教科書を教えるというやり方というか、入試もあって怖いので、そちらが優先されてしまって、かなり英語のできる先生でも、英語で指示をしているんですけど、日本語でわざわざ簡単なワードまで言い直してしまったりしています。子どもたちは、英語の授業だけど、先生が日本語で指示してくれるのを待っていたりするものもあります。まず、CAN-DOリストをしっかりつくって、この単元でどんなことがどうできたらいいのかを明らかにする。その中で、英語を使った授業をもう少し推奨できるように、うちの英語の指導主事を早い段階で回らせていただくという形で、英語の授業の改善、英語をできるだけ使った授業とCAN-DOリストのてこ入れについては、5月あたりから学校を回って刺激をして、指導をしていきたいと思っています。

渡邊委員の言われるように、教諭の英語力はひとつ強みですので、2番と3番と4番と

5番が全部うまく事業設計ができれば、成績は上がっていく可能性はあるのではないかなと思います。教員の英語を使用する機会であるとかALTの活用の工夫であるとか、そういうことをCAN-DOリストをつくった上でより活用できたらと思っています。

ALTもなかなかうまくスピーカーに使えない状況があったり、ゲームをしてくれる役であったり、そんな感じで使ってしまうところがあって、ALTからも、私たちも英語の本文を教えるところでもっと使ってもらえたらという意見を聞いているので、そういったところを、指導主事を絡めて現場に伝えていながら授業改善を図っていく取り組みを考えています。

○葛西教育長 英語力があれば英語を教える力があるのかというと、やっぱりそうではないと。やっぱり英語を教える力、これをさらに磨いていくというふうなことで、今、指導課が幾つかの方策を、今後、早急にやっていきたいというところかなとは思ったんですけども。

○杉浦委員 表記までお話ししてもよろしいんですね。

○葛西教育長 構いません。お願いします。

○杉浦委員 気づいたところ、質問とかいろいろあるんですが、まず、6ページ、先ほど松崎委員が指摘されたESDカレンダーのところの書き方ではあるんですが、ほかのところは、活用するとか発行するとか、そういった使い方の方向性が書かれているんですが、ここだけカレンダーと名詞がぽんと出てきているだけなので、カレンダーをどうしていくのかということまで書いていただきたいと思いました。

6ページから7ページにかけての、これは確認でもあるんですが、特に7ページの調査検討内容ということで、今後検討を進めていただく主な項目が5つ書かれているわけなんですが、ここで書かれている5つの項目のみを調査検討としていく予定なのか、あるいは調査研究していく主な内容を挙げているのかのあたりをちょっと確認したいなど、読み手の方とか、特に議会とかでは思われるかなと思いました。

教育と経済という、あまり常にリンクするものではないのかもしれませんが、例えば地元の電気工事の事業者さんとかもたくさんいたりもしますので、そういった地元への経済効果というものを少し視点に入れた調査検討も必要なのではないかなと思いました。

7ページのアクション5の目的の文章なんですが、私自身の国語力が乏しいだけなのかもしれないんですが、1行目から3行目までの文章を読むに当たって、「ICTを活用することによって、学習課題への興味関心を高めたり」というところまではすっきりするん

ですが、次の文章の、「学習内容をわかりやすく説明したりするなどして」という、ここが何か何回読み返してもちょっとひっかかるんです。おそらくこれが、主体が誰なのかということが若干ぶれているのかなと思って、先生がなのか生徒なのかというところで、少しこの、先ほど読んだ文章が何か改善できないかなと感じました。

あと、8ページのところですが、先ほどCAN-DOリストについてご説明をいただいたんですが、ここのページの下に書かれているCAN-DOリストの説明の文章と、本日配付されております平成27年度「英語教育実施状況調査」の結果についてで、一番最後の行になりますが、書かれているCAN-DOリストの説明の文章が若干不一致をしています。特に、これが英語の学習到達目標の4技能を用いたもののCAN-DOリストなのか、今現在、今日出されましたアクションプラン（案）では、全教科において、こういったCAN-DOリストの到達目標というものがあるのかのような読み方もできますので、ちょっとこの辺の表記は明確に統一して書いていただきたいなと思いました。

最終的に外に出していくときになんですが、CAN-DOリストであったりとか、2つ目の説明文の書き方と、このプランの2ページの下用の用語解説の表記、レイアウトの仕方が異なっておりますので、最終的に外に、文章が固まってからで結構ですので、ここの体裁は整えたほうが見栄えがするのではないかなと思いました。

以上です。

○葛西教育長 ありがとうございます。

まず、四日市版ESDカレンダー、これは活用なり、あとどうするのかという、そういう方向性ですね。

それから、施設課長にお聞きしますけれども、調査検討内容、これは、主な内容なのか、あるいはこれが全てなのかという、そういうふうなこととか、それから地元への効果のような、そういうようなことについて、いかがでしょうか。

○今村教育施設課長 教育施設課長の今村です。

今回の調査項目内容につきましては、普通教室へ発注するに当たって、数が多いということも踏まえて、主に5点ほどが問題になってきております。ただ、調査段階の中では、先ほどおっしゃっていただきましたような形で、業者等、あと周辺に対する環境等についても、あわせて調査する必要があるかなと考えております。

○杉浦委員 でしたら、7ページ、例えば主な調査検討内容とか、言葉を足していただくといいかなと思います。

○今村教育施設課長 ありがとうございます。

○葛西教育長 それから、アクション5のICT活用による学びの環境の革新の目的、この文章ですけれども。

○田中教育支援課長 教育支援課ですが、2文ありまして、最初の1文は、教師がICTを活用することによってという視点で書いておられますので、教師がすることによって関心を高めたり、あるいは説明をしやすくしたりすると。2文目が、子どもたちが活用するに当たっては、主体的な、協働的な学びをという形で分けた形なんですけれども、ご指摘のとおり、曖昧なところがありますので、表記を考えて直したいと思います。

○葛西教育長 それから、あとは、英検IBAの解説ですけれども、これについては、整合性を図るということでもよろしくお願ひしたいと思います。

○杉浦委員 CAN-DOリストに関しては、これは、英語のみという理解でよろしいのでしょうか。

○廣瀬指導課長 英語のみのCAN-DOリストを作成するという事です。そのように表記いたします。

○杉浦委員 お願いします。

○葛西教育長 ほかにいかがでしょうか。

加藤委員、お願いします。

○加藤委員 全体として、本当に懇談会の話し合われた内容をうまくといますか、適宜取り上げていただいて、いいプランになったなということで感謝申し上げたいと思います。

1つ、全体を通して言えることは、ちょっと会議の始まるまでに教育長ともお話をしておったんですが、5年間というのをに入れていただきましたが、いわゆるアクションプランというのは、5年間の間にどこでどのような進捗管理がされるのかというのをやっぱりもう少し組み込まないと。個々の文章は確かに、説明はきちっと書いてもらってあるんですけども、いつまでに何をどうするのかというのがやっぱりちょっと弱い、見えてこない。

5年間、何かばた一と、最後の5年目でこれもあかんだかな、これもどうかなということになってしまうので、確かに四日市の全体のプランの中で、総合計画の中で、今これだけを取り上げて、具体的な日程、スケジュールを出すのは難しいんだとは思いますが、そういうお話もちょっと教育長にはお聞きしたんですけど、せめて教育の中で、誰がどのように進捗管理するのかとか、あるいは何々委員会というのをつくって、そして、きちっと年度ごとに達成状況を把握していくような、何かそういう組織がぜひないと、それこそた

びたび出ている屋上屋で、絵に描いた餅ということになってしまうおそれを懸念しますので、そういう進捗管理をするのはどのようにするかということも一度議論いただきたいと思えますね。

それと、個々のことでは、例えば5ページの「心豊かな“よっかいち人”」の育成、これも幾つかいいことが並べてもらってあるんですけど、まさに先ほど、環境のE S Dカレンダーという説明もありましたけど、私たちのまち四日市を知るための何かE S Dカレンダーが要るのかなと。まず、小学校の低学年段階ではこういう経験もできますよねという、9年間を見通して、我がまち四日市を知って、「心豊かな“よっかいち人”」を目指す、マトリックスを張っていくようなイメージ、それがないと9年間を見通したよっかいち人がなかなか育成できないのではないかなと思います。

かといって、個々に行くと、博物館、プラネタリウムは3年生で見学しますというのはあるでしょうけど、それが、将来どう繋がって、過去にはどう来ているのというのがわかりにくいので、よっかいち人を育むE S Dカレンダーがあるのかなのかですけど、ぜひぜひ考えていただきたいなということを思いました。

それと、小さいことですが、今5ページを開けていますので、②の道徳や学活、総合的な学習の時間など全ての教育活動でというのは、これ、ちょっと逆と違うかなという気がする。やっぱり全ての日々の授業の中で意見交換や議論を行う場はきちっと確保して、とりわけ道徳や学活、総合的でという表現のほうが私はすっきりするかなという気がしました。

それと、6ページから7ページにわたって、いわゆる空調設備がありますよね。これ、施設的な検討内容があるんですけど、もう一つ、ソフト面で、いわゆるカリキュラムの検討もぜひやっていただきたい。といいますのは、教室にエアコンが入れば、当然、暑さを凌いで、8月いっぱい教室が使えるわけですね。だから、いわゆる授業時数の確保の問題であるとか、あるいは夏休みの、極端に言うと、短縮のこともありますので、そういう授業時数の確保の問題も、この空調に関連して検討いただくことがよりこの授業の効果が増すのではないかと。

だから、私は、若干夏休みを短縮しても、土曜授業よりも夏休みを少し、ここへ短縮して、きちっとしたカリキュラムがここに入り込むような従来の夏休みの中に、そういうことをやっていくのがいいと思っているんですけども、ぜひこの空調のところで、ここにどれだけかけるかはちょっとありますけど、ぜひ授業時数の問題についても、空調を取り

入れることによって検討していただきたいし、それを検討しておかないと、できたがや、さあ、これからどうしようということ、ちょっと後になってしまう、後先しますの、教育内容についても書いていただくといいのかなというふうに思いました。

○葛西教育長 今、加藤委員から幾つか提言があったんですけど、これで、事務局でこんなふうな考え方を持っているというふうな、そのぐらいのレベルでもいいかと思うんですけども、考え方があれば。

○加藤委員 まず、進捗はどうです、進捗管理。

○吉田教育監 ここが私どもも、何年までに何をって明記するほうがいいのかとは思いますが、これはやっぱり、ぜひ総合教育会議の場でそのあたりを、教育委員の皆様からご意見も出していただくというのはどうなんでしょうかね。

私どもでは、事務局から、何しろかなり莫大な予算を伴うこと、それから、伴わなくても、そちらの部分についてはある程度書けるかもしれませんが、少なくとも、この5年間でこれを徹底していきたいという思いは100%という形で進めていきたい、あるいは先ほどありました英検についての英語力のこの目安についても、少なくとも国が示した設定目標はクリアしていきたいと、そういうようなことは書けますが。

○加藤委員 総合会議へ出てですよ。

○吉田教育監 そのあたりでご議論をより深めていただくほうがいいのかというのは正直思っているところです。私どもも、何もそれを避けて通るつもりはないんですけども。

○加藤委員 だから、ほんとうに、実施主体は市長、首長さんがやっぱり最終的にこれを管理いただかないとだめなんですよ。

○葛西教育長 学力向上アクションプランは、これは、あくまでも教育委員会です。首長は教育大綱のみでありまして、もちろん、そこからこの学力向上アクションプランは出てきておるんですけども、これは、教育委員会が主体となってやっていくと私は認識しております。

今、第2次推進計画の最終年度に今年が当たってしまっていて、来年度、29年度から31年度まで、これが第3次推進計画ということで、いろんな政策的なものについて、年次的にどれだけ予算を充てて、どこまで進捗していくかという、そういう計画をこの秋までにつくるという予定になっています。

ですから、当然、私たちは、ここに書かれたものをさらに詳しく、どこまで、どの段階までやっていくのかというようなことを今後議論して、そこには盛り込んでいくというこ

とはなっていくわけですが、だから、そのあたり、どのような表現にしていくのかとか、あるいはこのアクションプランに後から盛り込むようにしていくのかとか、その辺の意思統一というんですか、そのあたりは総合教育会議で議論をすべきことかなと思っています。

○加藤委員 ちょっとお言葉を返すようですけど、例えば、1ページの学力向上アクションプラン策定の経緯というくだりがありますね。その上の図がまさにアクションプランに出てくる流れなんですけど、アクションプランは教育委員会が主体でやるんですとなってくるのか、やはり総合計画を受け、そして教育大綱を受けてアクションプランがありますので、せめて総合教育会議なるものである程度全体を見ていくような、進捗管理まではちょっと言い過ぎかも知れませんが、いつも総合教育会議の場でこの進捗についてはやっぱり議論する場がないと私はだめなのかなと思うんです。

○葛西教育長 それはそうです。それは当然、教育委員会事務局として、まずはきちっと進捗管理をしていくと。それは、今までも学校教育ビジョンがありまして、それを毎年、ビジョンの進捗状況について政策委員の方も入っていただいて、やっています。当然、この学力向上アクションプランにも、それとよく似たような手法で毎年きちっとやっていくということはあると。それらを総合教育会議に出して、この学力向上アクションプランがどの程度まで出来ているのか、課題は何なのかと。それから、今後、ちょっと方向性を変えなければならないものがあるのか、あるいはさらに力を入れていかなきゃならないものはあるのかとか、そういう議論はぜひ総合教育会議で見ていきたいと私も思っています。

○加藤委員 くどいようですけど、今までのアクションプランとは違うところは、やはり総合教育会議なるものが法的に整備され、それを受けてアクションプランが出ていますので、従来出してきた、教育委員会がいろいろ現場に示してきた、あるいは我々が持った学校教育ビジョンとは、やはり一味、二味違うというところの意味づけをしっかりとっておかないと、このアクションプランの価値が半減してしまうと思うんですよね。

やはり市全体で、四日市全体で教育に特化して、アクションプランを推進するんですという姿勢で、政策推進会議でも、やはりこのアクションプランというのはまさに政策推進会議でやるような議論なんですよということを持っていただかないと、ほんとうに四日市の、いわゆる我々が教育委員会でやってきたビジョンとのすみ分けがちょっとできなくなるところがありますので。

○葛西教育長 そうですね。だから、そういうご意見を今度の総合教育会議でも教育委員

の先生方からやはりおっしゃっていただいて、それを共有していくと、そういうことは大事になってくるのかなと思います。

○加藤委員 きっと現場にこのまま出したら、現場はまたかと思うのではないのでしょうか。これは、やはり総合教育会議というのを後ろ盾に、あるいはそこが全面的に支援しながら、このプランの実現には邁進するという、いよいよ教育も教育単独じゃなくて総合的にという、ぜひそこへ議論をしていただきたい。事務局の方も、この内部だけじゃなく、横へ発信をしていただく努力をしていただきたいです。

○渡邊委員 そのとおりですね。教育大綱が柱ですよ。だから、教育大綱はどこがつくったのかというと、やっぱり総合教育会議なので、市長が中心となってリードしてここまで来たわけですから。

じゃ、それを具体的にどうするんだということで、学力向上のアクションプランというものが今ここまで来たわけですからね。まさにおっしゃるとおりでして、教育部局だけできちまちまということになると、一体、今までのビジョンとは何なのかというようなことが必ず起こって、消化不良を起こすに決まっているんです。

だから、出発点が大事です。ぜひ、大まかであっても、この振興については、市政全体の中でプッシュしてもらおうと、責任を共有して進めていただくんだということになれば、まさに教育に熱心な四日市というようなものがぐっとクローズアップされると思いますね。それは、やはり市のためであり、市民のためでもあるわけで、さらには将来のためにもなると思います。

○加藤委員 どうしても5年では難しいというのは、やっぱり大胆に削るべきだと思います。

ただ、今はそういう議論をしていませんけど、これだけは譲れないよというのも確かにありますし、これはちょっと5年後でもいけるというのもきっとあろうと思いますので、そのあたりはもう少し精査するというか、議論をしながら精査をしていくということになるのかもしれませんが、だから、我々だけで難しいんですで終わってしまうと前へ行きませんので、やはり難しいところを副教育長なり教育監なりにはご努力いただいて、教育委員会から出てやっぱり調整をしていただきたいし、もうこれだけはやっぱり従わざるを得ませんというのが出てきたら、またご報告いただいたらいいので、そういうのを期待したいと思いますね。

○葛西教育長 いかがでしょうか。

○杉浦委員 関連して1ページですが、そうすると、この学力向上アクションプラン策定の経緯というところで書かれているところ、総合教育会議が設置されましたと。その総合教育会議で学力向上をテーマに協議会が行われて、懇談会を設置することになったわけですね。その懇談会ではということ書かれているんですが、一番最後の2行の、この提言を受けということからだけは、総合教育会議ではなくて、四日市市教育委員会ではこの提言を受けとなっています。なので、先ほども教育長からご説明いただいた、教育大綱とか教育ビジョンとかアクションプランの主になるところがどこなのかというところで、この最後の2行だけが、四日市市教育委員会ではという、そういうことになるのであれば、ちょっとここだけ改行するなりして、このたびとか、四日市教育委員会ではとか、というような言葉が必要になってくるとの認識を持ったんですが、いかがでしょうか。

○加藤委員 となると、やはりアクションプランは教育委員会に。

○杉浦委員 ということですね。これ、表紙自身が四日市市教育委員会に出ているわけですね。

○加藤委員 いや、それも含めて、この学力向上アクションプランなるものをどういう位置づけでいくか。

○杉浦委員 そうですね。今の議論を反映して、ここの策定の経緯というのがまたちょっと変わってくるのだろうなと思っています。

○加藤委員 でも、ここが私は踏ん張りどころやと思いますね。

○葛西教育長 教育委員会が事務局としてこのアクションプランをつくったということは間違いありません。ただ、これが、やはり総合教育会議で議論されて、そこから生み出されてきたものですから、当然、それを実現していく形をしっかりとるためには、総合教育会議で進捗状況について議論をして、このプランの実現を図っていくという継続的な取り組みをしていく必要があると思います。そういうことを1か2のところに盛り込んでいくことも可能かなとは思いますが、思いますが。

○杉浦委員 当然、これは大綱から来ているというところは、1ページの上段の部分で位置づけと役割というところでしっかりと示されているわけですので、その下の策定の経緯というものに関しては、明確に主体は表記したほうがいいのではないかなと思いました。

○加藤委員 1番の表紙の四日市市と四日市教育委員会は並列で書いてもらってあるんですね。

○吉田教育監 そうです。

○長谷川教育総務課長 当初、市長部局の調製の中で連名表記と。ですから、四日市市と四日市市教育委員会の両方の作といいますか、併記でしたいという当時の市長部局の調製でございます。

○加藤委員 この表紙の書きぶりについては、まだ今後調整も要るのかわかりませんが、これはぜひ議論いただきたい。

○渡邊委員 今までのとは違うわけですね。ビジョンとは全く違うわけですよ。

○加藤委員 あれも四日市市だけでもええかわかりませんが、そこまで踏み込むぐらいに議論をしていただきたいなど。

○葛西教育長 よろしいでしょうか。

先生方にいただいたまだ宿題もたくさんございますので、それもさらに議論を深めて、またご提案をしていきたいと思えます。どうもありがとうございました。

それでは、これよりさきにお諮りいたしました非公開の案件であります協議及び議案に入ります。